

公表用

助成対象事業成果報告書(概要版)

制度名	情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金
助成対象事業名	映画・映像・舞台芸術等に対応したクラウド型情報保障サービスの提供
助成対象事業者名	特定非営利活動法人 メディア・アクセス・サポートセンター
助成金の額	6,075千円

【助成対象事業の全般について】

①	助成対象事業の概要	視聴覚障害者に向け、音声透かしや音声解析技術等とスマートフォンアプリ等を使って、音声ガイドや字幕、手話を提供するサービスを行う。
②	助成対象事業の目標	映画館、DVD・Blu-ray や舞台芸術で、スマートフォンアプリや字幕メガネを使って、インターネット上のサーバーからバリアフリーデータを提供することで、視聴覚障害者の芸術へのアクセス保障、視聴環境改善を行う。

【令和〇〇年度実施部分について】

③	助成対象事業の実施内容	・聴覚障害者用字幕、手話配信(字幕メガネ、DVD 等) ・視覚障害者用音声ガイド配信(スマートフォン等) ・字幕メガネ貸出事業(映画館・個人・法人貸出・学校寄贈) ・バリアフリーデータ制作 ・舞台芸術向け台本配信システムの提供 ・YouTube 動画、リアルタイム、アーカイブ字幕対応
④	助成対象事業の成果	スマートフォンアプリによる視覚障害者用音声ガイド、聴覚障害者用字幕共に90作品。字幕メガネ貸出の映画館は87館、個人77名、法人は11箇所。DVD 用字幕配信は計330ディスク実施。手話と字幕サイト配信計25本。舞台芸術向け台本配信システムを提供した。YouTube 動画に対する、リアルタイム字幕対応、アーカイブは94回。スマートグラスの新機種の発売にともない、映画館でテストを実施した。興行収入 10 億円以上の邦画は、97%の対応となった。
⑤	補足説明事項	バリアフリーデータのアーカイブとその公共的利用に関しては、業界のコンセンサスを得て、4月1日公開することが決まった。この構想が正式に動き出すとき、関連する全ての企業に賛助会員になっていただくことで自立化できる。洋画におけるバリアフリー対応は2社で開始した。